

府立守口支援学校



テーマ:「わかって、うごけて、すまいる(うまくなる)up」できる授業づくりのブラッシュアップ

～ ティーム・ティーチング:T1、T2 の役割に焦点を当て ～

概要

自己肯定感を高める授業づくりを体系化

守口支援学校では、「自己肯定感・授業力向上プロジェクト(通称:JJ アッププロジェクト)」を平成 29 年度から全校で推進しています。これと連動して、子どもたちが自信を持ち、より学びを深めるための一つの方法として、教員間の連携、「ティーム・ティーチング」の在り方について見直し、子どもの資質・能力の向上を図ることめざしました。

実施スケジュール

Research

6月上旬

担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

8月29日(木)

全体会

テーマ「ティーム・ティーチングの基本」

Plan

11月中旬～

指導主事による授業見学・指導案検討

Do

11月14日(木)

研究授業・研究協議(高等部:体育)

12月12日(木)

研究授業・研究協議(中学部:数学)

Check & Act

1月中旬

アンケート集約

全体会

8月29日(木)「ティーム・ティーチングの基本」 ～ T1・T2 の役割に焦点を当て ～

支援教育推進室指導主事より

子どもたちが主体的にいきいきと活動できる授業づくり

ティーム・ティーチングの授業形態<参考>

ティーム・ティーチングを授業に生かすには

- ティーム・ティーチングによる授業の課題は
 - ・教員同士が互いに依存的になりやすい
 - ・T2の働きかけが児童生徒の補助や管理に終始する
 - ・T1だけで授業を請け負ってしまう
 - ・自分の担当する児童生徒のみに意識が集中し、授業全体への視点が欠ける
 - ・共通理解の困難性
 - ・指導の不統一

ティーム・ティーチングを授業に生かすには

- ティーム・ティーチングによる授業の特長は
 - ・個々に即した対応/集団運営が可能になる
 - ・学習集団への多様な活動を用意しやすい
 - ・児童生徒への幅のある対応が可能になる
 - ・多面的な視点で子ども理解が高められる
 - ・互いの発想・方法が刺激となり実践が高められる
 - ・効率的で十分な事前準備ができる

チームの会話を3人の教員で行います(鼎1)：子どもたちが主体的に学び始めるために、T・Tの役割を明確にした。このよう工夫が考えられます。

子どもと教員の協働関係

- ＝協働の位置
- ＝協働の位置は必要であるが、教員が子どもの側に入ること、子どもの活動の中心になること。
- 子どもの主体的な対話や深い学びが期待できる活動場面
- 子どもの位置
- ＝主体的になった実態から、子どもが何を担当し、子ども同士の対話や深い学びを生む。(学習環境の設計を通じて実現)

ティーム・ティーチングを有効に進めるために共有すべきポイント

- ・子どもの個別目標
- ・授業展開
- ・役割分担
- ・展開や活動内容、個別目標を考えた指導・支援内容の確認(指導の一貫性)
- ・評価(児童生徒に対して)

ティーム・ティーチングの基本や実際、またグループ協議を通し、先生方が考えるティーム・ティーチングの課題を探っていきました。授業改善の部分では客観的に振り返りが行えるように、ビデオ録画等を利用した授業分析の大切さについても話しました。

(資料は抜粋)

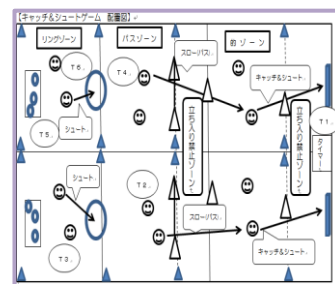
研究授業

(1)

学年・教科： 高等部2年 「体育」
 単元名： 「フライングディスク『ディスクをつなげ!』」

研究協議のポイント 「『わかって、うごけて、すまいる(うまくなる)up』
 できる授業づくり」 ～ T・T の役割 ～

子どもの主体性を促すために「待つ」という視点を大切に、子どもへの言葉かけのタイミング、授業の熱気、常日頃の教員同士の連携・情報共有について協議しました。



研究授業

(2)

学年・教科： 中学部 「数学」
 単元名： 「仲間探しマップ～1・2・3を数えよう～」

研究協議のポイント 「『わかって、うごけて、すまいる(うまくなる)up』
 できる授業づくり」 ～ T・T の役割 ～

子どもたちが将来に向け必要としている力に応じた題材の設定、教材・教具の提示の仕方や授業における教員の連携のポイントについて協議しました。



成果

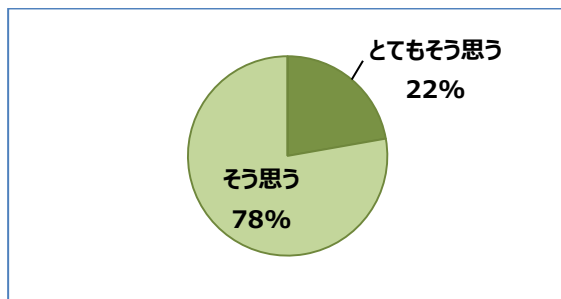
子どもたちが自己肯定感を高め、「わかって、うごけて、すまいる(うまくなる)up」できる授業づくりのためには、1つの授業を担当者全員で作りに上げていく大切さ等を再認識できました。

普段の一つひとつの授業について振り返り、改善を行うことで子どもたちにとって、主体的・対話的な深い学び、わかって動ける、次につながる「よい授業」とは何かを考えることができました。

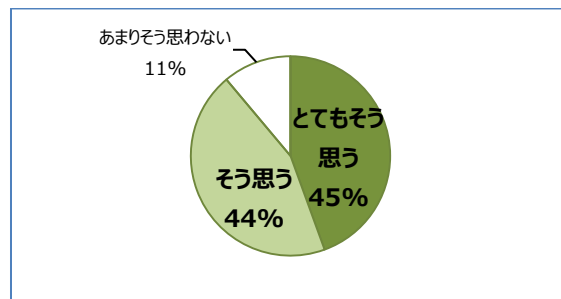
守口支援学校では、昨年度もパッケージ研修支援を活用し、「効率のよい研究協議の進め方(研究協議 30分プログラム)」というテーマで取り組みました。そこでの成果も生かされており、充実した研究協議となっていました。

アンケート結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 意識改革の観点での本事業の効果は大きい。
- ・ パッケージ研修支援を活用することで、少しでも本校の授業研究の体制が整えばと考えた。
- ・ 学校として職員に啓発していきたいことをくみとって、研修してもらいありがたかった。
- ・ パッケージ研修支援を受けることで、専門性を高めたり、自分の指導の方向性を確認したりすることができた。